

## 「失敗とそこから学んだこと」

出光タンカー（株）  
三等航海士 地多 健太

今回、私が乗船中に経験した失敗と、それによって学んだことについて述べさせていただきます。

その日、私はフィリピン人のクルーと二人で全カーゴタンクの硫化水素と酸素濃度の計測作業をしていました。作業自体はとても簡単で、カーゴタンクの上に取り付けられているディッピングホルの蓋を開け、そこに気体検知器を取り付けて、バルブを開け、タンク内のガス濃度を測定します。測定終了後、取り外す時は、まずバルブを閉めてから、検知器を外し、蓋をします。作業自体はたったこれだけで、とても簡単でした。経験のある若いフィリピンクルーに教えてもらいながら、全17カーゴタンクをすべて測りました。

計測も終盤に差し掛かり、作業に慣れると共に疲れも出て注意が薄れてきた時のことでした。検知後にバルブを閉め忘れて検知器を外してしまいました。カーゴタンクの中は、その日、10kPa という高い圧力になっており、タンクの中の気体は開けられたままのバルブから勢いよく噴き出してきました。直ぐに急いでバルブを閉めましたが、そのとき危険に気づき、血の気が引きました。

カーゴタンクの中は2パーセントほどの低い酸素濃度の気体で満たされており、場合によっては硫化水素などの非常に有害な気体が高濃度で存在します。酸素濃度の低い気体や高濃度の硫化水素を吸った場合の危険性について、一呼吸で意識昏睡、死に至る場合もあることを入社後の研修で習っていました。簡単な作業ですが、その危険度は一歩間違えれば命に関わる作業でした。幸いその時は直ぐに気づきバルブを閉めたことや、事前に一等航海士から、必ず風上側で作業するように言われていて、風上で作業していた為、勢いよく吹き出てきた気体を直接吸うようなこともなく、何一つ被害なく作業は終わりました。

今回で二つのことを学びました。一つは慣れや不注意からミスはいつか必ず起きるということ、二つ目は危険を予想しあらかじめ対策を取ることの大切さです。

一つ目に関しては日常生活でもよく体験することだと思います。車の運転でも初心者より少し慣れた人のほうが、注意力が薄れたり、確認を怠ったりして危ない運転や事故を起こしやすいと聞いたことがあります。熟練者で何度もその作業を行っているにも関わらずミスを起こしてしまうケースはよく耳にします。危険な作業をするにあたって、常に十分な注意力を保ち続けることは重要ですが、人間である以上、精神状態や疲労状態の影響、慣れによる不注意、錯覚や勘違いなどでミスは必ず起きてしまうと私は思います。つまり、いつか必ず誰でも、どれだけ注意力があつたとしてもミスは起こりうるものだと考えたほ

うが良かったと思います。

二つ目は危険が発生してしまう状況をどうするかということです。今回のことで私は、危険をあらかじめ予想し、被害を最小限もしくは、無被害にする対策を取ることが非常に重要だと思いました。今回の場合、必ず風上側で作業をしたことです。その結果、ミスを起こしてガスが吹き出たにも関わらず、直接有害な気体を吸わずに済み、結果、何事もなく作業を終えることができました。つまりあらかじめ何らかの理由で、中の気体が外に流れだした場合にそれを吸わずに済む対策がなされていたということです。今回、事前にそのような指導を受けていて本当によかったと思います。あらかじめ危険を予想し対策を取ることとはどのような作業を行うにしても、非常に有効だと思いました。

あらかじめ対策をとっておくことは重要ですが、同様のミスを再発しないように対策を取ることは、もちろん非常に重要なことだと思います。ただ、それだけだと新たな原因による事故には対処できないと思います。常日頃から想像力を働かせてこの作業にはこのような危険性が潜んでいるということを考えられるようになりたいです。

最後に、船内は陸上で普通に生活するより非常に多くの危険が常につきまっています。揺れる船体や、高所作業、有害気体や可燃性ガスの発生、閉鎖区画やむき出しの突起物など船内での危険を挙げだしたらきりがありません。また船内では誰かが事故をして、仕事ができなくなると誰かが代わりにその職務を行わなければなりません。なぜなら一人一人に違った職務が与えられているからです。そういった場所で働く者として、どうやったら事故を未然に防ぐことができ、被害を最小限で抑えることができるかという方法を常日頃から意識し、考えて仕事をしなければなりません。小さなことでも連鎖反応で大事故になるケースもあります。作業中に物を置く場所やその向き、物を動かすときなど、安全ということを常に念頭に置いて行動したいと思います。

以上